美川小学校

第２学年　　国　語　科　学　習　指　導　案

矢掛町立美川小学校

平成２２年１月２２日（金）公開授業①　　指導者　武井　澄雄

１　単元名　　ことばとことばでタタタタタ

『「冬休みの思い出タタタタタ」のカルタとりをしよう』

２　単元の目標

○五・七・五の音の数を数えながら，日常の生活の出来事を短い言葉で表したり，カルタを作ったりすることを楽しもうとする。　（関心・意欲・態度）

○冬休みに遊んだ思い出を，五・七・五の十七文字で楽しく書くことができる。　（書くこと）

○書いたものを読み合い，よいところを見付けて感想を伝えあうことができる。　（書くこと）

３　指導上の立場

（１）単元について

「ことばとことばでタタタタタ」の「タタタタタ」は，言葉と言葉をつないで，楽しいフレーズ（句）を作ろう，という意味である。本教材の例に挙げてある句は，五・七・五から成っている。しかし，ここでは俳句作りをしようとするのではない。俳句の五・七・五の形式を，表現を導く一つの方法として活用しようとしているのである。

五音と七音の組み合わせが，調子よく響くのは，今まで学習してきている詩や物語などに使われてきて，子どもの体にもなじんでいて，日常生活に定着しているからであろう。

日本人の生活の中に浸透している俳句の一面（形式）を借りて，子どもに，言葉のリズムを楽しみながら表現する場を与えようとするのが，本単元の目的である。五・七・五という形に当てはめることで，まとまった表現・一つの作品となるという安心感，達成感は得がたいものであり，この利点を子どもの表現活動に生かしたいと考えている。

本単元では，冬休みの楽しい遊びや出来事を振り返って，楽しい思い出を表現したいと考えている。さらに，自分で工夫したカルタを作り，一年生と楽しい「冬休みの思い出タタタタタ」のカルタとりをするという，明確なめあてをもって学習を進めていくようにしたい。そして，感想を聞くことにより，自信をもったり，満足感をもったりすることができ，楽しみながら表現をする態度を育てることができるようにしたい。

（２）研究主題との関連

矢掛町の教育行政重点施策である「コミュニケーション能力の向上」を受けて，本校では，国語科の研究を進めている。本年度の美川小学校の研究主題を「思いや考えを進んで書き，伝えようとする子ども～話すこと，聞くこと，読むことと関連づけて～」と定め，コミュニケーション力の育成をはかるために国語力の向上をねらい本題材を設定した。国際理解教育で本校が実践している日本の伝統文化に親しむことは，新指導要領で特に大切にされていることであり，日常生活の思い出を五・七・五で表し，カルタとりという言葉遊びを通して，思いや考えを進んで伝えようとする子どもが育つと考えた。

「つかむ」過程では，「せんせいはしっているかなつばめのす」の教材文を声に出して読むことにより，短い文でも，様子がよく分かることや，リズムがよく言いやすいことなどを感じることができるようにしたい。また，４つの作品は，音の数を数えると，五・七・五になっていることを確かめ，短い文の不思議な規則性に気付き，関心を高めていきたい。さらに，地域に住まれているゲストティーチャーに，「見たこと，感じたこと」の詩を五・七・五の音に言い換えたものを聞いてもらい，感想を言ってもらったり作品を紹介してもらったりすることにより，自分の作品づくりに意欲がもてるようにしたい。そして，冬休みの思い出のカルタを作り，一年生とカルタとりをするという楽しい活動を目指して学習計画を立て，見通しをもって学習できるようにしたい。

「ふかめる」過程では，冬休みの思い出を振り返ったり，生活科の学習「冬の遊び」と関連して，自分の書きたい題材をしっかり探せるようにしたい。また，遊びや出来事の写真を授業

の中で，個人や全体で見ることができるように，教材提示装置と電子黒板を活用して映しだし，イメージをもちやすくすることで，作品を書いたり，友達の作品を聞いたりする活動の手助けになるようにしたい。さらに，二人組の活動やクラスでの発表を取り入れることにより，「こんなところがいいね。」という気持ちで，楽しいところ，工夫しているところなどを話し合いながら学習を進めることで，お互いのよさを認め合って表現できるようにしたい。そして，ゲストティーチャーに感想を言ってもらうことにより，自分の作品のよさを知り，満足感や達成感をもち，次のカルタづくりの意欲をもつことができるようにしたい。

「ひろげる」過程では，一年生と「冬休みの思い出タタタタタ」の楽しいカルタとりを行い，また，その活動の中で異学年の多様な感想があることを知ったり，互いのがんばりを認め合ったりすることができるようにしたい。会の中で，子どもや教師が作品を取り上げて褒めることにより，自分の書いたことの喜びに浸るとともに，また，他の子どもが，友達の着想の良さに気付くようにしたい。このような取り組みを通して，「書くことを楽しむ子ども」に育っていくと考える。

4　単元の指導計画（総時数９時間）

過程	時	主な学習活動	支援と評価（◇）
つかむ		「見たこと，かんじたこと」の詩を，五・七・五の十七文字でいいかえてみよう。	
	1	・「せんせいはしっているかなつばめのす」を読み，気付いたことを発表する。	・声に出して読むことにより，言いやすい感じやリズミカルなところに気付くようにする。 ・声に出しながら，青丸のところで指を折ることにより，音の数が五・七・五になっていることを確かめることができるようにする。
	2・3	・「見たこと，かんじたこと」の詩を，五・七・五の十七文字でいいかえてみる。	・標語やかるたなど，五・七・五でつくられたものに触れた経験を話し合うことにより，いいかえの手助けになるようにする。 ・教師が作例を示すことで，詩を五・七・五でいいかえやすくすることができるようにする。 ・ゲストティーチャーに，お気に入りの作品を紹介してもらい，表現する楽しさを感じることができるようにする。 ◇五・七・五の音の数を数えながら，作品を読んだり，いいかえてみたりしながら，短い言葉で表すことを楽しむことができる。 ［関］発言，態度
		ことばとことばでタタタタタ 「冬休みの思い出タタタタタ」のカルタとりをしよう！	
			・冬休みの思い出のカルタをつくり，一年生と楽

			しいカルタとりをするという，学習の見通しをもてるようにする。
ふかめる	課外 1本時	冬休みの思い出を，五・七・五の十七文字で書いてみよう。 ・冬休みの思い出を取材する。 ・冬休みの思い出を，五・七・五の十七文字で書く。	・楽しかった冬休みや生活科の冬の遊びの学習を振り返って，書く材料を集めるようにする。 ・電子黒板に活動の写真を映し出して，冬休みに遊んで楽しかったことをイメージしやすくする。 ・五・七・五の音で表すことができるように，マス目の入ったワークシートを準備する。 ・ゲストティーチャーに感想を言ってもらうことにより，満足感や達成感をもつことができるようにする。 ◇冬休みの思い出を，五・七・五の十七文字で楽しく書くことができる。 ［書］発言，ワークシート
	2	・冬休みの思い出カルタを作る。	・カルタの作り方を知ることで，一年生と楽しく遊ぶことができるカルタを工夫して作るようにする。 ◇書いたものを読み合い，よいところを見付けて感想を伝えあうことができる。 ［書］発言・カルタ
ひろげる	1 2 3	一年生と「冬休みの思い出タタタタタ」のカルタとりをしよう。 ・会の計画を立てる。 順番・係 ・「冬休みの思い出タタタタタ」のカルタとりをする。 ・振り返り，感想をまとめる。	・一年生に楽しんでもらえるようにするために，アドバイスをし合いながら練習をする。 ・楽しかった意見や感想を言ってもらうことにより，自信をもったり，達成感をもったりして，意欲的に取り組むことができるようにする。 ・意見や感想を聞いたり，今までの学習を振り返ったりすることにより，「短い言葉で書き表すことが楽しい」という充足感を得られるようにする。 ◇五・七・五の音に親しみながら，日常の生活の出来事を短い言葉で表したカルタとりを楽しもうとする。［関］発言・態度

5　本時案（「ふかめる」過程　第１時）

目　標	冬休みの思い出を，五・七・五の十七文字で表すことができる。

学　習　活　動	教　師　の　支　援　と　評　価
1　本時の学習のめあてを確かめる。	○冬休みの思い出を発表することで，五・七・五で表す題材を確認する。 ○電子黒板に，思い出や活動の写真を映し出すことで，イメージをもちやすくできるようにする。
冬休みの思い出を，五・七・五の十七文字で書いてみよう。	
2　冬休みの思い出を，五・七・五の十七文字で書く。	○・五・七・五の音で表すことができるように，マス目の入ったワークシートを準備する。 ○どのように書くかが分からない子どもには，個別に冬休みの話を聞きながら，言葉を探し出すように助言する ○進んで書けている子どもや，友達の作品のいいところをつぶやいている子どもを称揚する。
3　作品を発表し，感想をや意見を話し合う。	○提示装置を使って作品や写真を電子黒板に映し出すことにより，聞く人に分かりやすく，また，話し合いやすくする。 ○友達のよいところや作品の感想を発表できている子どもを称揚することにより，学習への意欲をもつことができるようにする。 ・楽しい様子がよく分かる。 ・お正月らしいなと思う。 ・あの言葉がとてもいい。 ○ゲストティーチャーに感想を言ってもらうことにより，自分の作品のよさを知り，満足感や達成感をもち，次のカルタづくりの意欲をもつことができるようにする。 ◇冬休みの思い出を，五・七・五の十七文字で楽しく書くことができる。 ［書］発言，ワークシート
4　本時を振り返り，次時の学習を確かめる。	○頑張ったことを発表することによって，本時を振り返ることができるようにする。 ○ 次時は，一年生に喜んでもらえるカルタづくりをすることを確認する。

ふかめる	3 4 （課外）	あらすじを考え，物語を書こう。	
		・物語の場面設定をする。 ・物語の構成を考え，あらすじを書く。	・物語の登場人物や舞台設定，題名（いつ決定してもよい）などを明確にするためのワークシートを準備する。 ◇ワークシートに沿って物語の条件を設定し，構成を考えて，あらすじを書くことができる。 ［書］ワークシート
		・これまでに読んだ物語を振り返り，その構成や表現にはいろいろな工夫があることを理解する。	・既習の物語から構成や表現がなされている部分を提示して話し合いをすることで，子どもがそれらのいろいろな工夫を確かめられるようにする。 ◇文章にはいろいろな構成や表現の工夫があることについて理解することができる。 ［言語］発言・態度・ノート
		・あらすじに沿って物語を書く。 （総合的な学習の時間・情報） ・ワープロソフトを活用し，物語の下書きを打ち込む。	・書く活動に入る前に，教科書 P57④を参考に，自分はこの点に工夫して書くというめあてをもたせるようにする。 ◇あらすじに沿って，自分で決めためあてを意識しながら物語を書くことができる。　［書］下書き
	5	よさを大事にしながら，物語を完成させよう。	
		・工夫した部分や作品のよさについて自己評価をする。 ・下書きした自分の物語を読み返し，校正をする。	・アドバイスシートに自分の作品の見どころや工夫した点などを記入することで，次時に読み手が自分の感想や助言をしやすいようにする。 ◇自分の作品のよさを確かめながら，物語の校正をすることができる。　［書］下書き
	6 本 時	・友達の作品を読み，よさを見つけたり，よりよいものにしたりするための相互評価をする。	・お互いの物語のよさを見つけつつ助言がし合えるよう，前時でそれぞれが記入したアドバイスシートを活用させる。 評価項目　①「すじ」や内容 ②表現の工夫 ③読み手を引きつける工夫 ◇物語を読み合い，構成や表現の仕方に着目して助言することができる。［書］発言・ワークシート
	7	・物語の清書をする。	・前時の評価を生かしながら清書をして，物語を完成できるように支援する。 ◇読み手に自分の思いが伝わるように，構成や表現，記述などを工夫しながら物語を完成させることができる。　［書］下書き・清書
ひろげる	（課外）	書いた物語を読んでもらい，学習のまとめをしよう。	
		・山田小の 5 年生から物語を読んだ感想をもらい，学習を振り返り，まとめをする。	・子どもが観点をしぼりながら学習のまとめができるよう，振り返りシートを準備する。 ◇目的や意図に応じた効果的な書き方について，自分なりに考えをもつことができる。 ［関］発言・ノート

5　本時案（「ふかめる」過程　第６時）

目　　標	物語を読み合い，構成や表現の仕方に着目して助言することができる。
学　習　活　動	教　師　の　支　援　と　評　価
1　本時のめあてを知る。	○　本時のめあてを知らせ，作品を読み合い，助言し合っていくことを確認する。
物語を読み合い，「すじ」や表現の工夫などについて助言しよう。	
2　学習の流れをつかむ。	○　前時に記入を済ませているアドバイスシート等を配布し，学習活動３と４がしやすいように，２人（3 人）組に座席を移動させる。 ○　電子黒板に学習活動の流れを投影することで，子どもが活動の様子をつかみ，助言をするときのポイントや観点を意識できるようにする。 ・アドバイスシートの内容　①物語の「すじ」の工夫 ②表現の工夫 ③読み手を引きつける工夫 ○　次時の推敲の活動がしやすいよう，友達の物語の下書きに，自分が助言したかったり，構成や表現のよさを見つけられたりした箇所にはシールを貼り付け直接書き込んでよいことを伝える。
3　作品を読み合い，自分の考えをアドバイスシートに記入する。	○　机間指導により，なかなかアドバイスシートへの記入が進まない子どもには，記入が進められるように，個々に話を聞くようにする。 ○　子どもが記入しやすいよう，アドバイスシートはどの観点から書いてもよいことを伝えながらいっしょに読み，文章の工夫に気づけるようにする。 ○　いろいろなポイントや観点についてアドバイスシートに記入の進んでいる子どもを取り上げて他の子どもに知らせ，学習の雰囲気を高める。
4　読み合いの結果を交流する。	○　交流の際には，アドバイスシートに書ききれなかったことについてもより具体的に自分の考えを相手に伝えるよう助言する。 ◇　物語を読み合い，構成や表現の仕方に着目して助言することができる。　［書］発言，ワークシート
5　本時のまとめをし，次時の学習活動を知る。	○　ノートに本時のまとめを書くことにより，相互評価（助言）によってよりよい文章にするための観点が増えたり，考えが深まったりしたことを振り返ることができるようにする。 ○　次時は，これまでの自己評価，相互評価（助言）を生かしながら文章を推敲して，物語を完成させることを知らせる。